フォトストーリー

子猫物語

The Adventures of Chatran



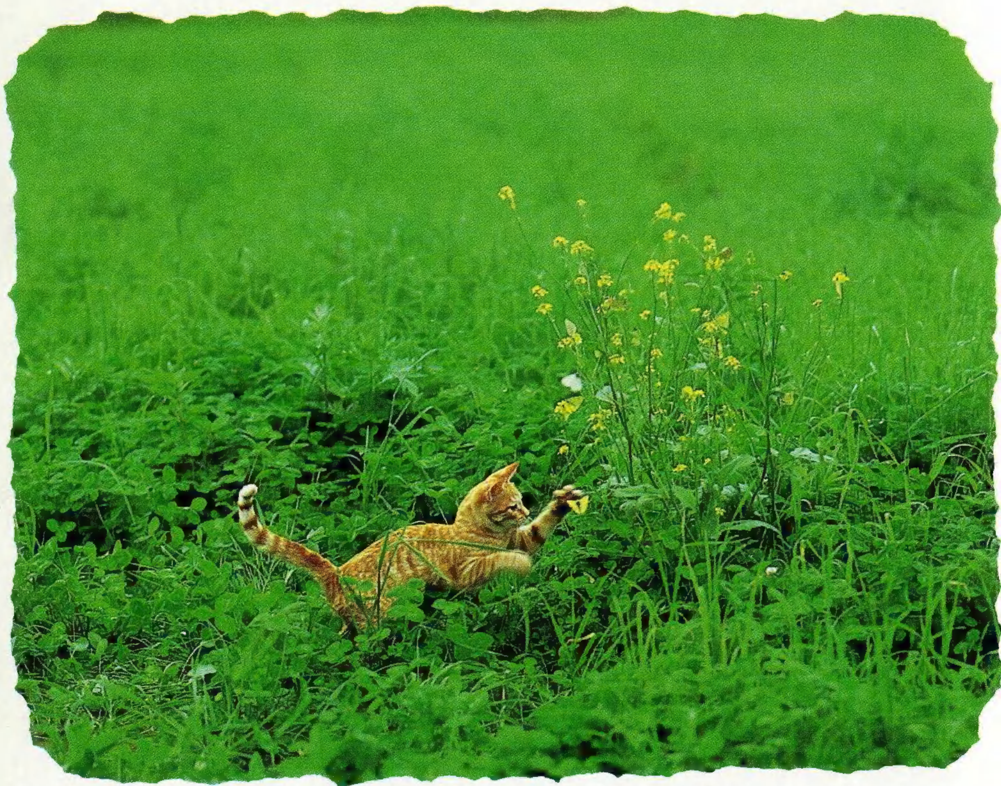
Photo story, Interview, Comics,
Discussion, Ne-column, Sequels,
Production note

BY THE ADVENTURES OF CHATRAN PRODUCTION COMMITTEE
FUSOSHA











私の名演技
ぜひおたの
しみ下さい。
助演男優賞
候補の
プー助です。



主役は私
チャトランです。
チャトランブーム
よろしく!

The Adventures of Chatran

CONTENTS






さくらという三毛猫に
子供が生まれました。
兄弟がたくさんいました。

その中で一匹だけ、まるで陽の光がしみついたような子猫がいたのです。
茶色のトラ毛です。それで名前がつきました。チャトランです。
チャトランは、兄弟たちの中でも、ちょっと変わった子猫でした。
ほかの子猫たちが、お母さんにまつわりついているときも、一人だけで散歩にでかけました。

まだ、よちよち歩きなのに木登りに挑戦です。長ぐつに登っては落ち、目を回したこともたびたびでした。

そんなチャトランが、庭で遊んでいるうちに、自分によく似た生きものを見つけたのです。

「きみの顔は、ぼくとまったく違うけど、どこか似ているんだなあー」

それが、犬のプー助でした。おならが得意なので、プー助です。

チャトランとプー助は、たちまち友だちになりました。一緒に遊んでいるうちに、似ているところがどこか、お互いに分かりました。

それは、活発で、とても冒険ずきなところだったのです。

物語

of Chatran



森が　こっそり　朝を　育てる。
一日が生まれた。
一日──。
不思議な時間。
昨日も一日で
今日もまた一日。
同じようでいて
まったく違う一日。
昨日、カッコウの雛が
巣から転げ落ちた。
その前は
たぬきが子供を産んだ。

子猫

The Adventures



森に抱かれて　朝が生まれる。
一日が生まれた。
一日——。
胸ときめく時間。
今日の一日。

わたしの背は五ミリのびた。
母さんの背に初めて登った。
一日。

魔法の時間。
季節を育てる時間。

原野の中に美しい家がありました。山の近くの一軒家でした。
主人たちは動物が大好きで、たくさん飼っていました。
アヒルがいて、ニワトリがいて、犬が何種類もいて、そしてそして、牛が、馬がいました。とにかく、にぎやかな家でした。















なんていたずら好きなんだ、あのふたり。



おまえ、何ていう名前だ。ちょいと、かわいがってやるか。

あれー、「おい、おかしな奴がいるぞ！こら、痛いじゃないか」



次は何して遊ぼうかな。

いじめたわけじゃないんだ。
そんなに泣くなよ。














チャトランとプー助は、かくれんぼが大好き。鬼になるのはたいていプー助、かくれるのはチャトランです。

チャトランはとっても上手にかくれます。信じられないほど狭い所にもぐり込んで、プー助の鋭い鼻から逃げてしまいます。

ある日のこと、チャトランは、川に浮かんでいた木箱にかくれました。

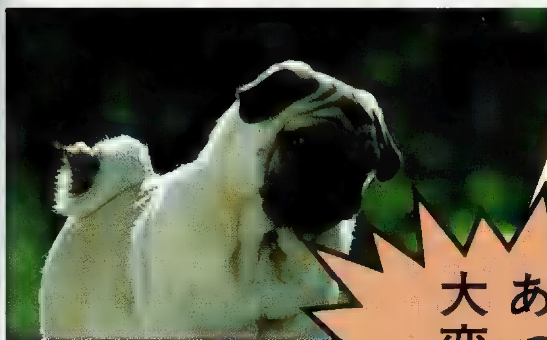
「ここならわからないだろう」

プー助をがっかりさせてやろうと思いました。

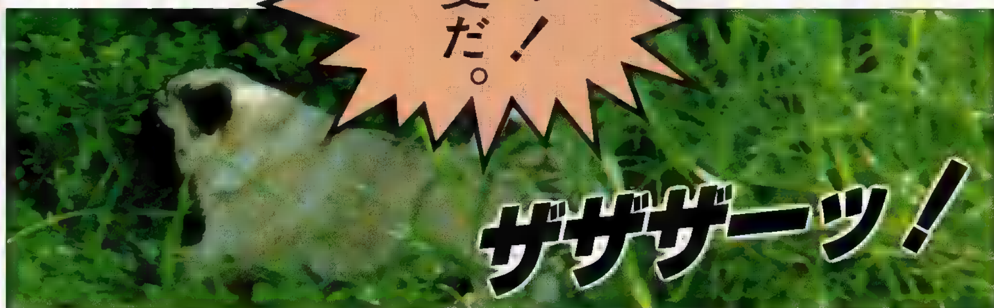
ところが、大事件が起こったのです。ゆわえてあった紐がとけ、木箱が流れだしてしまいました……。


どこへ隠れたのかな？あれェ

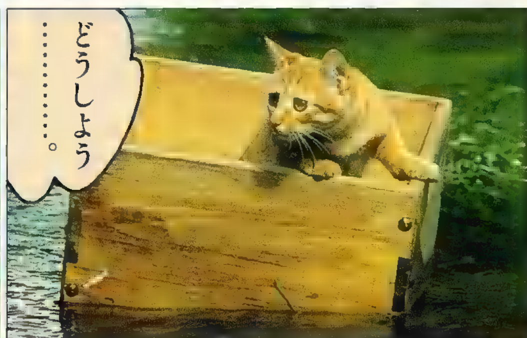



あっ！大変だ。




ザザザーッ！



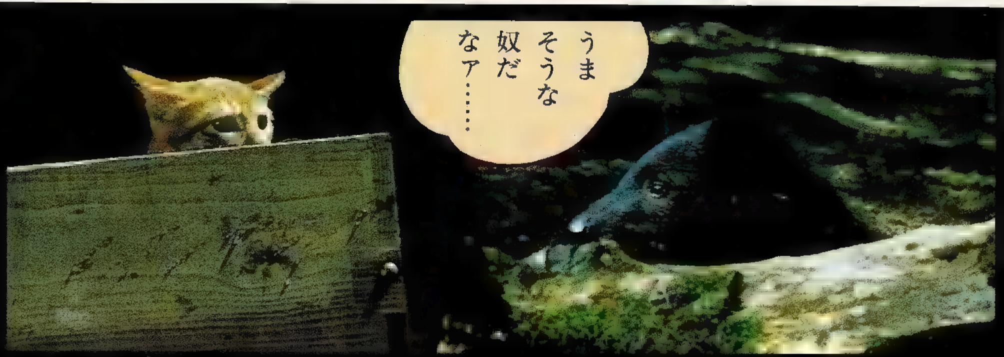

どうしよう……。


待ってろよ！
助けてやるぞ。




チャトラン
あぶない！


ザッ！


うまそうな奴だなァ……





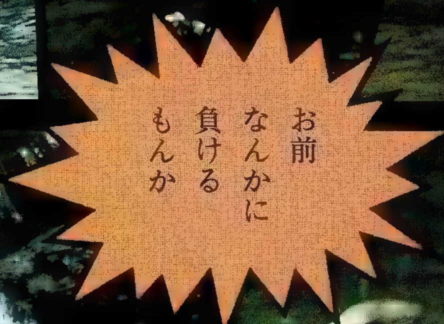

あっ！


よし、おれの勇気をみせてやる！



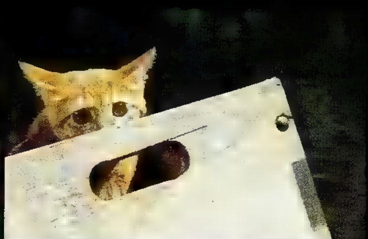

待て！
こいつ


なにおっ


お前
なんかに
負ける
もんか


バシャ！


ザバッ！




プー助、
大丈夫
かなァ……

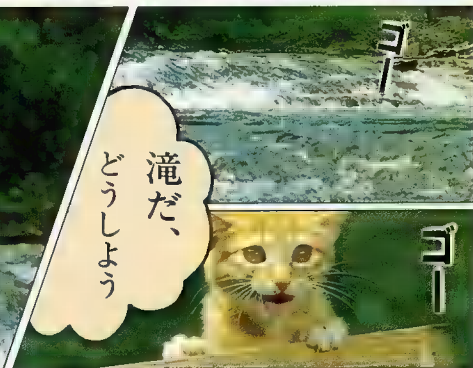




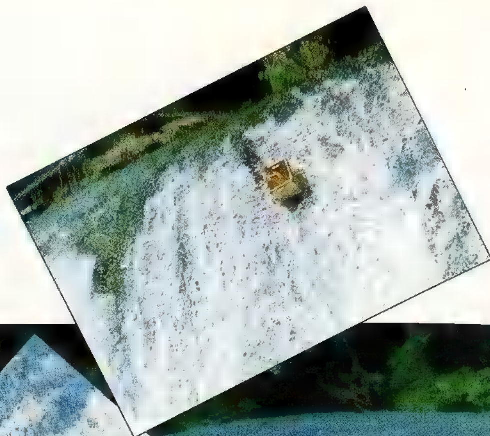







ゴー
ゴー
滝だ、どうしよう

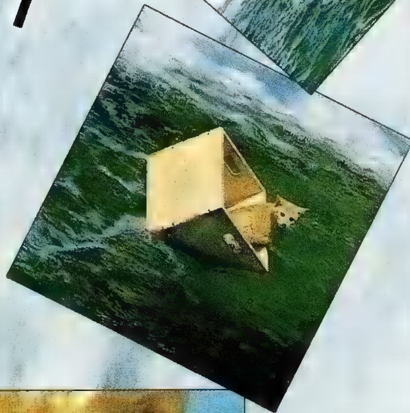

ゴー



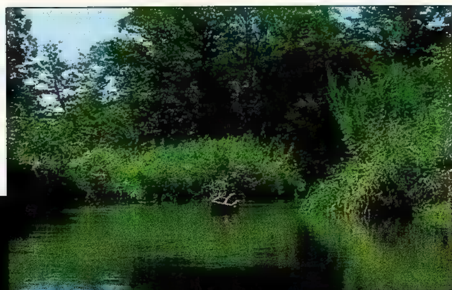
ワァッ



アーー















川をかけ下ったプー助は、浅瀬でチャトランが乗っていた木箱を見つけました。でも、チャトランの姿はありません。プー助の心配はつのるばかり。

そのころ、チャトランは、木箱から出て、新しい冒険の旅を始めていました。











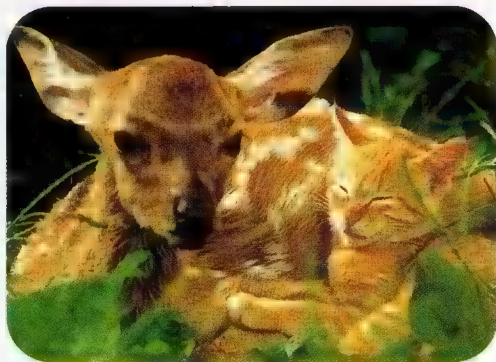
友だちだったら教えてくれよ
君
ちゃとらんを知らないかい

黄色の猫だよ　子猫だよ
ひげが長くて立派な尾
木登り上手なぼくの友だちさ

君なら知っているはずだよ
知らないなんて言わないでくれ
きつね君、君のように
するどい目を持つものはいないもの
風のように走れるものはいないもの
君なら知っているはずだ

友だちだったら教えてくれよ
君
ちゃとらんがどこへ行ったか

茶色の猫だよ　子猫だよ
お茶目でくすぐったがり屋で
寂しがり屋のぼくの友だち

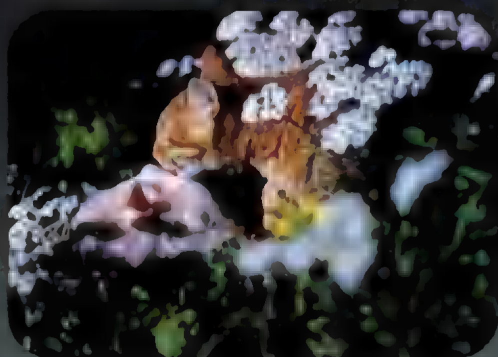


あなたとはじめて
手をつないで歩く
いつもの小道

いつもの場所で
小道は曲がり
いつもの場所に
水たまりがあります

けれども違う
いつもの小道
輝いている
よろこんでいる
木の葉さえ
わたしに話しかけてくる

あなたとはじめて
手をつないで歩く
新しい世界
これから始まる
二人の世界







夜が来ました。どこからか、小さな泣き声が聞こえてきます。近づいてみると傷ついた子ブタでした。

「おい、元気を出せよ」

チャトランは励まし、傷口をなめてやりました。やがて、血はとまりました。

チャトランは、子ブタを家へ送っていきました。子ブタの兄弟たちが集まって、歓迎してくれました。

母ブタからは、お乳をごちそうになりました。お腹がペコペコだったチャトランは、夢中になって乳房にすがりつきました。

気が遠くなるほどおいしいミルクでした。







旅の間、チャトランは、いつもお腹をすかせていました。川辺へ来たときです。水の中で、影が動きます。何だろう、よく見ると大好きな魚でした。





チャトランは、魚をしっぽで釣りあげました。しかし、ずるいアライグマに横どりされてしまいました。



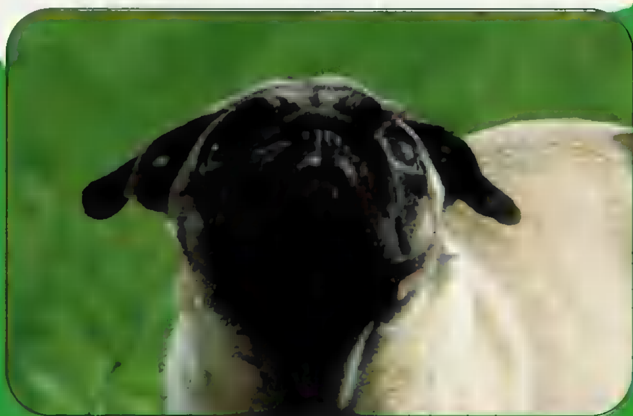
「プー助はどうしているだろう？」

チャトランは、旅を続けながらいつもそのことが気になっていました。

草原に高い木がありました。登って見わたしてみよう。

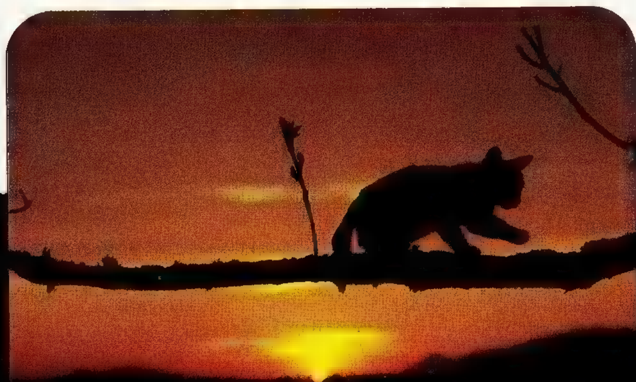
すると、どうしたことでしょう、むこうから、懐しい姿がやって来るではありませんか。

プー助でした。二人は草原を走り、転げ回って再会を喜びあいました。

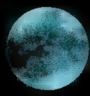




でも、また別れがやってきました。
草原で子牛がカラスに襲われていたのです。
それを見つけた正義感の強いプー助は、夢中になって、カラスを追いかけていってしまいました。
せっかく会えたのに！
チャトランは寂しくて仕方がありません。
夕焼けの中で、いつまでもプー助の去ったほうを見つめていました。







森にはカムイがいた
夜の森にカムイがいた
金色の目をして
ちゃとらんを睨んでいた

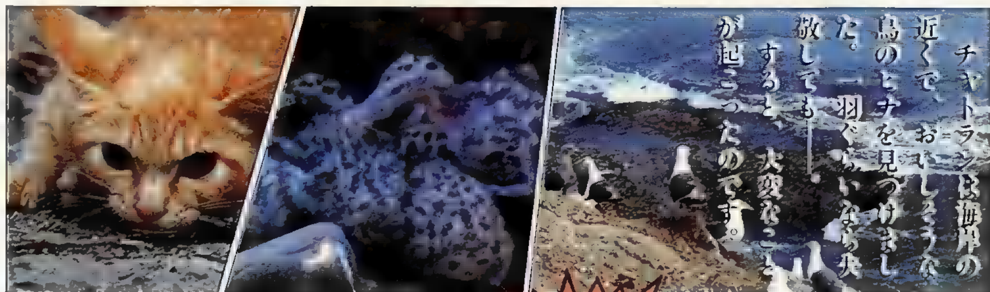
その昔
森に住む人たち
アイヌはフクロウをカムイと呼んだ
カムイは神という意味だ

ちゃとらんはカムイに会った
カムイは黙っていた
魚をとってきて
食べてもいいよとやさしく見つめた

ちゃとらんはほっとした
旅に出て
はじめて味わう平和だった
すぐに眠くなった

深い深い眠りだった
眠りの底で母親の夢を見た
目をさますと
カムイはいなくなっていた

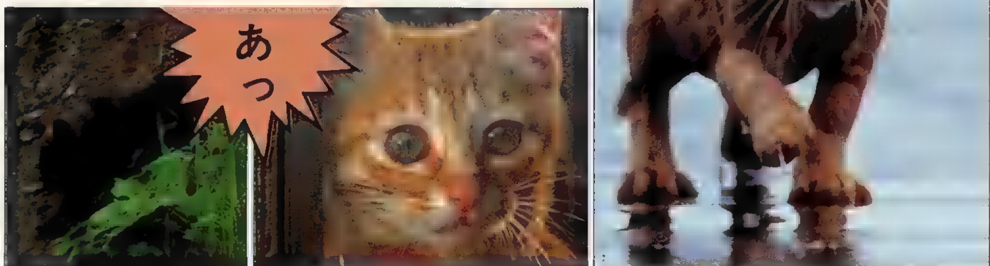
ちゃとらんは神さまがいることを
その夜から信じるようになった


チャトランは海岸の
近くで、おいしそうな
鳥のヒナを見つけまし
た。一羽ぐらいなら失
敬しても――。
すると、大変なこと
が起こったのです。


いけない
見つかっ
たか?
ワァー




少し休んで
いこう

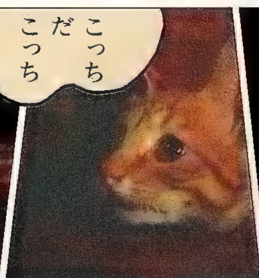

あっ


きた！



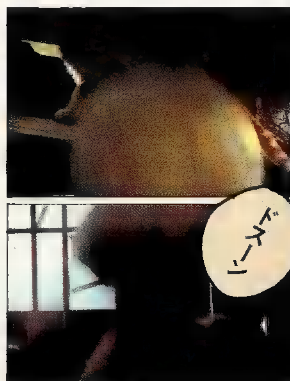

おいしそうなにおいがする




こっちだこっち


どこだ！




ドスーン


ウー


ガブ

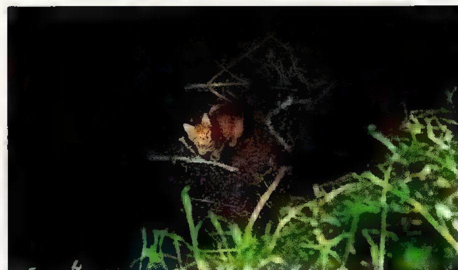

おそれ入りました




いてえー

一人旅の途中、チャトランは、木に登りました。
するると、そこにヘビが襲ってきたのです。
追いつめられ、枝が折れてまっさかさま――。
落ちた所は、なんと深い穴の中です。
壁が崩れてどうしても穴から出られません。











一日たちました。
チャトランは、
「助けて！」
何回となくプー助の名を呼びつづけました。
その叫び声は、風に乗ってプー助に届いたのです。

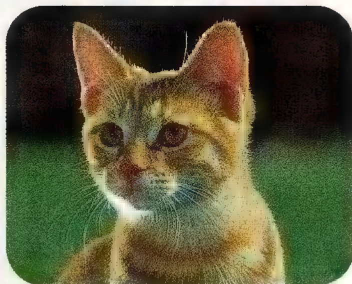










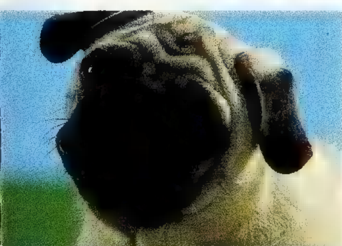




ある日のこと、チャトランはいい匂いをかぎました。胸がときめく匂いでした。

近づいてみると、まっ白いかわいい生きものが、すわってじっとこちらを見ていました。

チャトランは、やっと長い冒険の旅をしてきた意味が分かりました。自分は、この白い友だちを探していたんだ、と分かったのです。







やがて、雪が降り始めました。冷たい冬がやってきたのです。
でも、チャトランは、少しも寒くありませんでした。あったかい恋人がそばにいてくれたからです。





チャトランの心は、
美しい恋人に移ってい
たのです。プー助は、
ひとり寂しく去ってい
きました。
　でも、プー助にも、
うれしいロマンスが生
まれました。



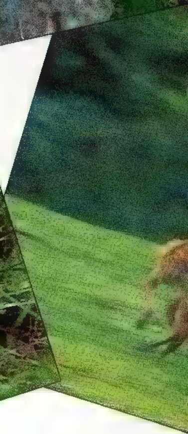
また、春が巡ってきました。
生命がいっせいに蘇えり、
風、大空、森、そして草花
原野のすべてが、
明るく、優しさに
満ちあふれるころ……。













白い猫に子供が生まれました。チャトランは、あるとき家族を連れて散歩にでました。すると、懐しい声が聞こえてきました。

それは、プー助一家でした。プー助にも奥さんができ、子供が生まれていたのです。

両方の家族は、すべてを忘れていっしょに遊びました。

長い冒険の旅をしたチャトラン、それを助けたプー助。

いつの間にか、子供にめぐまれ、たくさんの仲間がふえていたのです。





END







子猫物語
演技お願いの巻



なにしろ自由気ままがお好き！という個性派ぞろいのスターたちです。監督の演技指導はとっても大変。遊んで、お願い、説得一時間なんてざらでした。

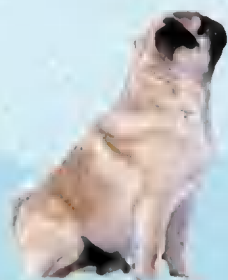




いいかい、
プー助
ここは、
深いかなしみの
表情が
欲しいんだよ。











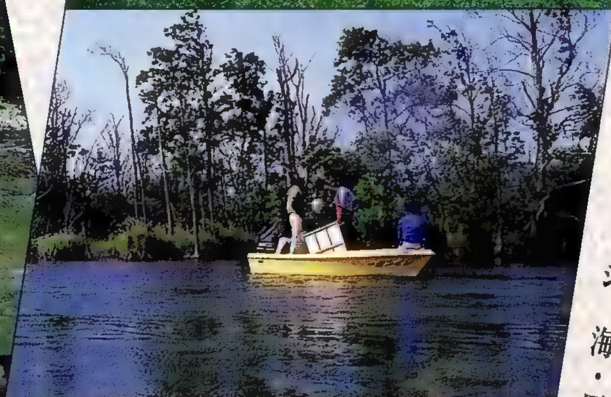


ビバ！ロケーション

北の原野には、豊かな自然の詩がすんでいます。動物たちは、四季の巡りに付き添われ、伸びやかに生きて輝きます。子猫物語は、そんな中で生まれ育ったのです。









自然のステージ、海・原野・川・森

自然の大道具、雨・風・雪・夜

















スタッフたちの春・夏・秋・冬

スター&スタッフの

ちょっといいタイム

スターたちとスタッフ、お互いに大好きでした。撮影の合い間には、心ゆくまで遊んで友情ほのぼの。そのハーモニーが、すてきな演技を生みました。







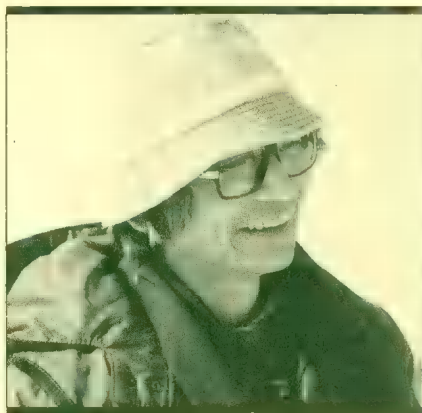






いのちの童話

畑正憲



いのちには、童話があります。人はときどき、その童話に憧れます。私が撮りたかったのは、そんな童話です。

この映画は、ノンフィクションではありませんし、科学的な記録でもありません。動物たちが語り合いながらドラマを展開してくれているのです。

ふつう、動物映画というと動物を調教し、それらしく動かしながら、筋だてに都合のよい部分をつなぎ合わせて作っています。ですから動物の表情は消えて、狂言まわしとして絵の中にあるだけです。

私は、動物の姿をじっと見ているうちに、動物たちだって語り合うし、語り合っている所を見ているうちに、まさに人間の姿がそこにあるという気がしてきました。人間では表現できない、純粋な人間の姿が描けると確信するようになってきたのです。

それがこの映画を撮りたいと思うようになった動機です。

しかし、道は長く険しいものでした。動物を思ったように動かすのは、たいへん難しい作業だからです。幸い動物王国というへんてこなものを作り、自然を味わいながら生きものと同居する生活が始まっていました。その中でスタッフが育ってきて、私の理想が少しずつ実現へと歩みはじめたのです。

この基礎をふまえてやっと可能になったのが、この映画です。ふつうはアニメーションで空想として描くものを、実物の動きの中で描けたことを、私は誇りに思っています。

特に主役になったチャトランとプー助にはつらさを乗り越えて一緒に映画を作ってくれたことに対して、心からの感謝をささげたいと思います。

新しい世界の誕生

市川 崑



私は〃助っ人〃ですから、ただの1カットも撮ってはいません。

畑さんの撮られたラッシュを見て、これは素晴しいものだと思い、協力したわけです。従来の動物映画ではない、新しいひとつの世界を作ることができたと思います。

人間の役者と違って、真実感のある表情がかわいらしさを誘っています。特に川下りのシーンの前、本当の子猫のころは無邪気な顔をしています。ブタ、子鹿などの〃演技〃も大したものですが、プー助がチャトランを助けようとしてロープをくわえて走り回るところも、よく描けていると思います。

〃動物映画〃は、ともするとお子様向けになりがちですが、二十歳前後の若い人たちを中心に、幅広い層の方々に見ていただけるように心掛けて編集しました。

そのため、変にドラマチックになることを避け、ナレーションもどちらかといえば、淡々と流れるようにしたのです。詩を挿入したのも、そうした狙いからです。確かに動物たちは、かわいい。そのかわいらしさにとらわれすぎないように、少し距離をおいて眺めるようにもしました。

また、ラッシュでは人間が出てくるシーンもあったのですが、動物だけに徹底した方がということで、外してもらいました。場所も特定せず、広がりのある映像にしています。

大自然の中で、いわば酸素がフレッシュな中で、けなげな命をいとおしむ、そんな気持を感じ取っていただければと願っています。

音楽
坂本 龍一



僕はもともと動物が好きで、猫や犬を小さい頃から飼っていました。「子猫物語」は国民映画になってほしいので、音楽ファンだけではなく、幅広い層に楽しんでもらえるよう気を使ったつもりです。自分の中の大衆性をどう出すか、というところが、この仕事でおもしろかった点です。子供のころ、ファンタジー映画を観た時の感覚を思い出しながら作曲しました。

詩の朗読
小泉 今日子



動物たちが大冒険するというのがとても感動的。私は都会で育ったので、こんな素晴しい映像は初めて見ました。私と同じような都会の子供たちも、この映画を通じて自然に触れられれば、と願っています。

主役記者会見

チャトラン氏、アカデミー賞より台所の魚を狙いたいと表明！

記者会見は、約10分の予定で始まりました。あまり長時間になると、冒険ずきの気難しい大スターです。いつ、放浪の旅に出てしまうか分からないからです。

トップで質問に立ったのは、もちろん、テレビ界で名高い芸能突撃レポーター氏です。今回は、いつもとはちょっとタイプの違うスターだけに、質問もとまどいがち。突撃氏にしては、なんとも平凡な突っ込みです。

㋠チャトラン
㋫プー助
㊕畑監督

――日本語でよろしいですか。(畑監督うなずく)。映画に初出演してのご感想から。

㋠それはそれは、ニャンともすばらしい体験でした。撮影の間、生きのいい魚をたくさんいただいて、映画ってほんとーにおいしいもんだなって思いましたよ。

㋫ぼくも、ワン、ワンダフルでしたよ。自分のかくれた才能を見つけましたし。

――それはすばらしい。

㋫本番スタートの声を聞くと、体がむずむずしてきて、自然に演技ができちゃう、天才なんですね、ぼくは。

㊕どんなに不機嫌でも、カメラの前に立つとパッと表情が変わる。生来の役者、スターなんだな、プー助は。

――アカデミー賞を狙っているという噂ですが。

㋠狙うんなら、台所の生きのいい魚がいいな。

㋫ぼくは、やわらかくて味のいい牛肉が狙い目ですね。賞味するんなら、紙やトロフィーより、味があるもの。

――畑監督の演技指導はどうでしたか。

㋠ネコ語が話せる日本で唯一の方ですから、それは呼吸ぴったりでした。昼も夜もいっしょに遊んでいただいて、撮影の合い間には、釣りたてのヤマメやオショロコマまでご馳走していただき最高でした。それにしても、（舌をペロリ）おいしかったなあ。

㋫監督とは、本番前にずいぶんプロレスをしていただきました。ぼくの得意技は、名前の通り、オナラ・プー。監督の鼻をたびたびひん曲げてしまいました。

――川で流されるシーンは大変そうでしたね。

恋人たくさん・子だくさんのプー助。



㋠不安そうに見えるでしょう。あれがぼくの演技力。ぼくはネコかきが上手だから、川は平気なんだ。それより、スタッフが大変だった。朝から晩まで、冷たい水につかって、守ってくれたのだから。みんなちぢみ上がって、ガタガタぶるぶる。

㋫転んで頭から水の中へ突っ込んだそそっかしい人もいたよ。

――プー助君は、川でクマと格闘しましたね。

㋫ブラッキーとだろ。あいつとは親しい友人なんだ。彼も役者だね、本番になったら本気だしてね、クマッたもんだ。ぼくが犬かきがからっ下手なのを知っているのにね。

―それにしても、チャトランさんをずいぶん救いましたね。

(プ)穴に落ちたチャトランを、ロープで救うシーンは本当に難しかったよ。監督が何日もかけて教えてくれたんだけれど、犬族の理解力では、どうも手順がのみ込めなくてね。助け上げられたときにはうれしかったよ、涙ぽろぽろだもの。

―チャトランさんに恋人ができて、別れるシーンでは、身につまされました。

(プ)あのシーンは演技というより、マジだったな。長い間、一緒に演じていると情が移ってね。現実と芝居を錯覚して、本当に哀しくて泣いていたんだよ。

(チ)あの時は、プー助の目が本気なんで、ぼくまで、内心悪くなったね。心配したんだ。今回はぼくが主役だけど、「お助けプー助」ってタイトルでもいいね。

(プ)でも、ぼくの名前は喜劇的だし、顔だって三枚目だし、主役はやっぱりチャトランさ。

―チャトランさんの空腹のシーンも名演技でしたよ。

(チ)本当をいうと、あの場面がいちばんつらかったな。リアリティを出すために、二日ぐらい前から絶食したんだもの。役者魂って奴よ。草を食べたり、うっかり毒キノコまで食べちゃった。

ニジマスを尻尾で釣るシーンなど、川底に魚が見えたから、とっさに思いついた方法さ。ブタの子を助けて、母さんブタからお乳を飲ませてもらったでしょ。気が遠くなるほどおいしかった。空腹にまさる調味料はないっていうけど、たしかですねえ。

―ところで、チャトランさんには、女性ファンが多いとか。

(チ)きなすったね。そりゃ、まあ。ファンの層が広くてね。ホモサピエンスの女の子は、ぼくを抱いて寝るのが夢みたいですよ。ネコの女の子には、もてすぎてね、恋人がいっぱいになっちゃった。子供もね。

(プ)ぼくも同じですよ。

―なるほど、なるほど。（突撃氏、身を乗り出す）。それは、しめた！話題です。近々、もう一度記者会見していただけそうですね■

(チ)〝猫に小判〟っていうでしょ。



いつの間にか、私も、チャトランやプー助になっていました。

ロケ現場を指揮した 監督補、上野 堯さん



――まず、撮り終えての感想から、お聞かせください。

「妻が、とっても優しくなったって、喜んでいるんですよ」

――それは、すばらしいことで。

「いや、北海道の大きな自然の中で、チャトランやプー助とずっと話していましたから、心が素直になったんでしょう。動物と話すためには、自分の心をまっさらにして接しないとだめなんです」

――角がとれて、丸くなった……。

「ちょっとニュアンスが違います。生命の素肌に触れたって感じかな。生命の光り、喜び、哀しみ、そうしたものに素直に感応できるようになったんですね。妻も動物ですから、その辺が分かるんじゃないのかな」

――全く新しいスタイルの映画でしたから、とまどいがあったのでは?

「もちろんです。最初、自分流の劇映画の手法で撮り始めたのですが、どうもうまくいかない。そこで、視線を動物のレベルまで下げ、そこから世界を見るようにしたのです。そうすると、まったく違う風景が見えてきました。心のピントも動物たちに合いだしました。いける、と思ったのは、このときからです。撮影を始めて一ヵ月後のことです」

――なるほど。

「それと、机上のプラン通りに動物を画面の中にはめ込むやり方はだめだと思っていました。動物たちの目が光り、生き生きと演じてこそ、この映画の新しさを引き出せると感じていたからです。時には台本まで見せて、話して聞かせたものです。スタッフも、全員が、心を自然にして生きものの世界に同化していきました。だから撮れた映画といえますね」

――撮影現場での様子をお聞かせ下さい。

「指示通りには、なかなか動いてくれませんから、いい表情、演技をしてくれるまで、説得、お願いをしながらカメラを回して待つわけです。一つの表情を撮るのに、千フィートもフィルムを使ったこともあります。

フィルムがなくなり、入れ替えているときに、一番いい演技をすることもあったりして。そこが、劇映画とは違った難しさでもあり、楽しさでもあったのですよ」

――プー助は、名演技でした。

「頭がいいんです、あの子は。畑監督が、心から喜んでいる表情が欲しいんだよ、といって、三十分から一時間も説得するんですね。そして、プー助本番だぞ、と声をかける。すると、体にぐーんと気合いが入って、それらしい表情をするんです。まさに役者、彼はスターなんです」

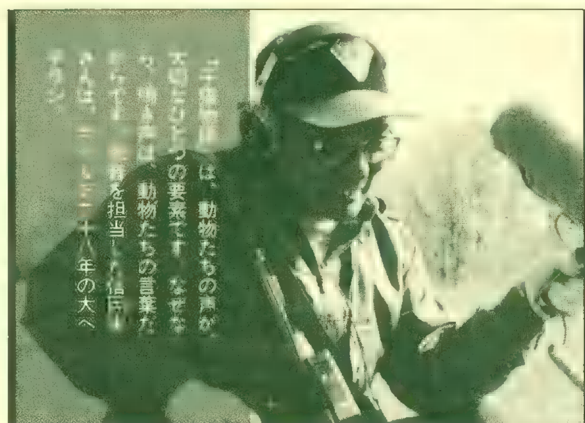
――楽しかった思い出もいっぱいでしょう。

「撮影の合い間には、川でオショロコマを釣り、すぐ唐揚げに。これはおいしい。いい映画にしよう、そんな緊張から、私を含めて、三人ほどスタッフがケイレンを起こしたのですが、こうした自然との交流でどんなに救われたことか。

自然の中で動物たちと作った映画、私にとって生涯忘れられないものです。それと、撮影中、一匹も死なせずにすんだので、ホッとしています。このことは、撮影で疲れた動物たちの面倒を本当によく見てくれた、動物王国のスタッフに感謝するばかりです」

動物たちの豊かな音の世界を知った喜びは大きいです。

録音を担当した 信岡 実さん



「長いこと、録音の仕事をしてますけれど、実におもしろい体験でした」

出会って、信岡さんが、最初に語ってくれた言葉です。

——そのおもしろさは、どの辺に？

「動物たちは、実に豊かな音の世界を持っていることを知りました。同じように聞こえる声でも、微妙なトーンの違いによって、意味が違うんですね」

——そこが難しさでもあったのでは？

「そうです。外国人の顔が同じように見えるのと一緒で、慣れるまで微妙な声の聞き分けはなかなかできない。怒ったり、甘えている声なら、すぐ分かりますが」

——録音で困ったこともありましたか？

「冗談ぽくいえば、今回は恐い仕事でした。撮影に参加して、いきなりヒグマの声をとって、という注文でした。何にしろ、立ちあがれば私の背丈ほどもある。マイクを向けると、こちらにやってくるのです」

——初めてのヒグマ体験ですものね

「習性が分からないし、飼育の方が一緒にいてくれても恐かった。結局、柵の囲いの中に私が入りまして、その前をヒグマに歩いてもらって、息づかいや鳴き声をとりました」

——チャトランやプー助はどうでしたか。

「チャトランは、一日中ついていて、遊んだり、他の動物たちと出会わしたりしながら根気よく、いろいろな鳴き声をとりました。単純に怒ったり、喜んだり、ねだったりする声は、簡単に出してくれますが、恐怖の声となるとなかなか——。

プー助は、顔と同じで、声の方も表情が豊かでした。ただ、怒って吠えるということを、パグ犬はなかなかしない。ある時、動物王国の柵の外にノラ犬が遊びにきた。それを見つけたとき、やっと吠えてくれました。」

——東北海道は、まだ自然が豊かですね。

「原野の川、森、雪のころ、とにかく自然の音は豊かです。それに、森を渡る風にしても、カラマツが多いし、その音は、北海道ならではのものがあります。シマフクロウ、カッコー、カミナリシギなど、鳥の鳴き声もたくさんとりました。

ただ、相当山奥へ入ったつもりでも、かなたから車の音が聞こえてくる。そのとき、原野っては、ほんとうに静かなんだな、と思いました」

——びっくりした体験も多かったでしょう。

「カラスを集めたときです。カラスとフクロウは相性が悪くて、カラスがフクロウを襲う、ギャギャーという声がある。これをスピーカーで流すと、たちまち大群が集まってくる。空が黒くなるほどで、無気味な光景でした。これなど、こんな音の活用法があるのかと、勉強になりました」

——技術的な難しさといいますと。

「音をとるだけなら、別に問題ないんです。今回の場合は、ただ指示しただけでは、望み通りの音はとれない。動物たちにそれなりの鳴き声を出してもらうためには、自分なりの工夫をして、セッティングしなければなりませんでした。そうして、すばらしい声がとれたときの喜びはまた大きかったのです」

動物王国スタッフ座談会

私たちの「子猫物語」



出席
石川利昭
石川ヒロ子
吉川明子
平岡木実
山崎裕子

「子猫物語」の撮影を裏で支えたのが、動物王国のスタッフたちです。疲れたチャトランやプー助の健康管理、遊び相手、さらには撮影のお手伝いまで、大活躍でした。楽しかったり、辛かったり、それぞれの「子猫物語」。どんなドラマが生まれていたのでしょう。

スター候補生が、続々やってきた

石川 映画の撮影に立ち合うのは、初めてだったけれど、思い出がいっぱいだね。

平岡 そうですね。スターを育てる所から始まったし。

吉川 撮影が決まると、スタッフの第一次オーディションに合格したスター候補生が、続々王国へやってきた。誰れの部屋にも子猫がいて、猫王国になっちゃった。

山崎 ミルクから育てた小さい子もいたし。

石川(ヒ) それぞれに個性があって、おもしろかったけれど、育てている間に、他の動物

と仲良くできるとか、演技の基本的な資質を作らなければならないんで、手間が大変。

石川　どんな子猫がきたっけ。名前をあげてみようよ。

平岡　最初にきたのが、シャーとガルマ。つづいてアムロ、ララ、グー、チー、パー、ランちゃん、ライオン丸、宗一郎、それからアウディ、パパ、ママ、ベンツ、チョコ、クッキー。

石川　よく覚えてるねえー。

吉川　もっといましたよ。センタロウ、ピンチ、チャンス、シャルルとネオン、百太郎にたまみ、オロチなんてのもいた。

石川(ヒ)　みんな子猫を抱いて寝て、大切に育てたんだよね。それに、自分が面倒を見ている子猫から主役を出そうとして、競走しているようなところもあったし。

山崎　私はパパとママを育てたんだけれど、ほんの幼い時は、庭で作業する時には、作業衣のふところに入れて歩いていた。少し大きくなってからは、馬たちと散歩したり、王国のいろいろな動物と遊べるように仕向けたのね。

平岡　ポニーのピッコロやヒツジのメリーたちと子猫が草原を散歩している姿はとってもよかった。原野のメルヘンって感じで――。

石川(ヒ)　それにしても、都会からきた子猫たちは病気持ちが多かったね。目や皮膚がやられている。それに、シラミ、ノミが付いているのには驚いたなあー。

山崎　皮膚病の子なんて、治る前にスターをあきらめて帰っていっちゃった。

石川　スター誕生にしては、夢のない話になったけれど、まあ、その中から選ばれたのが、王国での名前がベンツ、すなわちチャトランだ。

平岡　最初は無口な子で、あまり目立たなかったわね。

吉川　でも、一度カメラの前に立って、演技テストをしたら、とたんに光り始めた。

平岡　かくれた才能を秘めていたんだね。今、私の部屋にいるけど、表情が豊かで好奇心いっぱい。軍手の猫じゃらしで遊び始めたら飽きることがないもの。

吉川　それと、おかしかったのは、主役が決まった後も、みんな自分の育てた子猫に未練があって、エキストラでもいいから出演の声がかかるのを待っていた。

平岡　親心ですよね。

山崎　パグ犬もかわいいスター候補生がやってきました。ナポレオン、キャロット、ポテト、ボンちゃん、デンちゃん、そしてプー助。

石川(ヒ)　プー助は、きてすぐに肺炎やって、いちじはだめだと思ったけど、よく生きかえったね。

吉川　だから、助けてくれた人間をものすごく信用していたし、なついてもいたのよ。

山崎　チャトランを助ける名演技も、その体験から出ているのかもね。プー助の恩返しってわけで。

吉川　それに、美食家だった。

石川　クジラの尾の身や牛のヒレステーキ、ごちそうの日になると、足もとに端座して、あの大きな目でじっと見上げるんだ。とろけるような殺しの視線。誰れだってたまらなくなってあげちゃう。

時にはアザラシのパパ、石川利昭さん



平岡　ムツさんによくなついていたから、いちばんの被害。でも、うれしそうだった、ムツさん。

失敗もしたけれど、忘れられない思い出がいっぱい

石川　撮影に入ってからは、悲喜こもごも、いろいろあったね。

吉川　大ありでした。列車が走り去るシーンでは、私が何も知らずに赤いツナギを着ていったのね。赤い色は、列車に緊急を知らせる時に使うんだ！って、大目玉くらっちゃった。

平岡　たくさんの人が線路ぎわに群がって、赤い色が目に飛び込んでくれば、運転手さんはギョ！列車止めちゃうよ。そうしたら大NGだ。

吉川　それに、カメラが回るまで、動物たちをスタンバイさせるのが難しかった。私がカメラに入ったら大変なので、地面に伏せ、動物をおさえて待つのだけれど、気が張りつめ息を殺しているから、本番が終っても気付かないで地面にへばりついている。

　すると、スタッフから、「いつまで寝てるんだい」なんて声がかかって、大赤面！

バッファローのチュ！に大照れ、山崎裕子さん





時にはキタキツネのママ、石川ヒロ子さん

平岡　たしかに、狙い通りの演技ができるように、リラックスさせた状態でスタンバイさせておくのは難しかった。私の場合は、プー助が、橋から川に飛び込んでチャトランを助けようとするシーンで大失敗！

　とにかく緊張しているから、監督の合図をまちがえて、チャトランを乗せた木箱が橋の下に来ないうちにプー助をはなしたのね。橋から川面をのぞきこんだプー助、木箱は流れてこないし、オレ何すればいいんだい！って感じでキョロキョロ。こちらをうらめしそうにふり返って、ドジめ！

石川　でも、NGだって分かってるから、川へは飛びこまない。頭がいいよ、あいつは。

石川(ヒ)　私はキツネのキキが出るシーンのお手伝いをしたのだけれども、キツネは神経質で気ままだから、本番中にもとんでもない方へ遊びに行ってしまう。林の中へ入ったり、川の対岸に渡ってしまったり。

　撮影するより、林の中を捜し回っている時間の方がはるかに長かった。動物相手ならではの撮影風景でしょうね。

石川　でも、演技力はすばらしかった。湿原でプー助と出会って遊ぶシーンなど、とっても自然で、生き生き美しく撮れている。名場面の一つだよ。

平岡　私には、とってもうまくいった楽しい


食事作りも大切な日課、吉川明子さん（左）と平岡木実さん（右）

思い出があるの。子鹿とチャトランが出会って一緒に眠るシーン。

あの撮影は午後だったので、午前中に作戦考えて、チャトランがくたくたになるまで遊んでやった。すると、うとうとっとくる。ゆり動かしてまた遊ぶ。撮影が始まるころには、まぶたがくっつくほどねむかったんだろうね。実に気持よさそうに子鹿に抱かれて眠ってくれたもの。

石川　あのシーンは、ほんとによかった。生きもののけなげさと優しさがよく出ていた。

平岡　そうでしょう。私も大好き。忘れられない思い出だわ。

スタッフたちの間にも小さなドラマが生まれました。

石川　撮影が始まったころ、スタッフは劇映画の人だったから、とまどったみたいね。カメラを固定して、そのフレームの中で動物を演技させようとしていたけど、これは無理だもの。

山崎　本番前には、ムツさんがその日の主役たちと一時間もかけて、ころげ回って遊ぶ。スタッフの人たちは、なにしてるんだろうって面くらってた。

石川（ヒ）　動物たちは、遊んでいるときにいちばん目が輝き、生き生きする。その流れのままにリラックスして演技してもらう。その呼吸が分からなかったのでしょうね。

吉川　それに、動物が苦手な人もいたし。でも、一ヵ月もすると、動物好きになって、ひまをみつけては、遊んでやっていた。

石川　その辺からですね。撮影が順調にすべり出したのは。スタッフの人たちも、チャトランやプー助の心理状態まで読めるようになったみたいで、先、先と読んで撮影のセッティングをしていった。

山崎　動物たちは神経質だから、ちょっとした物音や人の動きでも、耳をそちらに向けて反応してしまう。すると狙ったシーンは撮れない。

平岡　スタッフの人たちが、一番びっくりしたのは、クマが登場するシーンだったみたいね。

人にはよく慣れてはいるけど、何てったってクマだ。都会から来た人にとっては、こわいのはあたりまえだけど。

吉川　歯も強いし、力も強烈、クマは遊んでいるつもりでも、あの腕ではりたおされたら大変。ブラッキーの黒い姿が見えると、スタッフの顔に緊張が走って青ざめていたよ。

石川　とにかく、気分をそこねないようにみんな腫れものにさわるようだった。

平岡　笑っちゃ悪いけれど、助監督のIさんの事件はおかしかったな。カモメにチャトランが襲われるシーンで、機材を持って岩場の上へ登っていったのね。

石川（ヒ）　登るにつれて尾根が細くなって、てっぺんまでいったら、固くなって動けなくなってしまった。

山崎　彼は高所恐怖症だったのね。下は海だし、よっぽどこわかったんでしょう。

石川　仕事だから、高い所へは登れませんなんていえないし。スタッフがかけつけて、抱え下ろされた時には、顔は青ざめ、見ていて

気の毒だったな。

平岡　ムツさんとああいう形で仕事をしたのは初めてだけれど、やっぱりすごいと思いましたね。ムツさんが現場に現われると、それまでたるんでいて、なかなかうまく演技してくれなかった動物たちが、急に気合いが入って一生懸命になる。あの力は何なんだろう。

石川　一日中、外の撮影でよれよれになって、夜は書斎にこもって原稿だから、あの体力と気力にはいつもながらびっくりさせられる。

吉川　ムツさんもいっていたけど、今回のスタッフは、すばらしい人たちだったね。いい映画を作ろうって情熱があって。

山崎　あんまり張り切りすぎて、緊張と疲労で胃ケイレンを起こした人もいたけど。

石川(ヒ)　朝から晩まで、よく働いていました。チャトランやプー助たちも、ほんとうにがんばったけど。

平岡　撮影が長時間になるので、困ったこともあったのよね、女性陣には。

吉川　なにしろ原野の中でのロケがほとんどだから、トイレがない。近くに人家もなくて借りるわけにもいかないし。

石川　そうでもなかったよ、僕たちには。

平岡　男性はいいでしょうけど、女性は自然の中ではちょっとね。

吉川　前の晩から、水分をひかえ目にして、朝から夕方までガマン、ガマン。ずいぶんしんぼう強くなった。

石川　ロケが終わって、お祭りの後みたいでちょっと寂しいけれど、すばらしい体験だった。夏はたしかに厳しかった。牧草の取り入れ、ムツサント用の長ぐつバンドの練習、それに映画の三本立てだったから■

山崎　終わってみれば、精一杯やった満足感の方が大きい。

吉川　いいことか悪いことか分からないけどテレビや映画の見方が、だいぶ変わってしまった。

平岡　それはいえますよ。今までは何気なく見ていたワンカットワンカットがすごく気になり出したしね。

　撮影現場を想像して、カメラの位置はどこになるだろうとか、この場面では、何回ぐらいNGが出たのかな、なんてよけいなことまで気にしてしまう。

石川　長い年月をかけて、みんなでがんばった映画だから、ぜひたくさんの人に観てもらいたいね。

平岡　そして、動物たちの生命のすばらしさに触れて、心の中に人それぞれの「子猫物語」が生まれてくれたらすばらしい。



ロケのおやつ

畑 純子



　春夏秋冬、撮影は続きました。夏の小屋の中での撮影になると、ライトの熱と人いきれで、大変な暑さです。そんな中で、スタートの声、いっときの静寂、続いて人のどよめきと拍手。

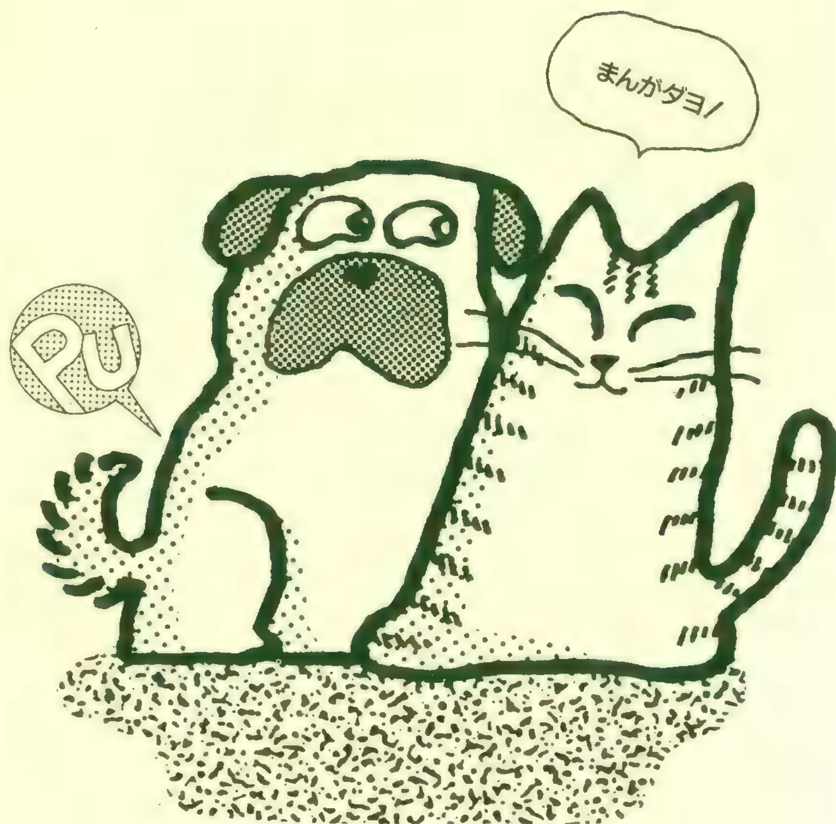
　ドアが開いて、まっ先に転げるように飛び出してくるのが、演技を終えたチャトランとプー助です。スタッフの人たちがそろったところで、ソフトクリーム。

　逆に厳寒ともなると、気温はマイナス三十度近く。そんな日には、朝から大鍋でたっぷりのおしるこ作り■撮影が長びいた時には、サンドイッチやハンバーガーのさし入れです。

　いつも、撮影がうまくいってくれますようにと、祈りながらの台所仕事でした。

　撮影がうまくいって、おやつをほうばるスタッフの笑顔を見ると、ほっとおいしい気持になり、それが、私にとっての、何よりのおやつだったように思います。

撮影ゆかい日記



荒井　建

○月×日
子猫物語の撮影は順調に進む……。

ハイ、カット!

フン、いちゃいちゃしやがって!



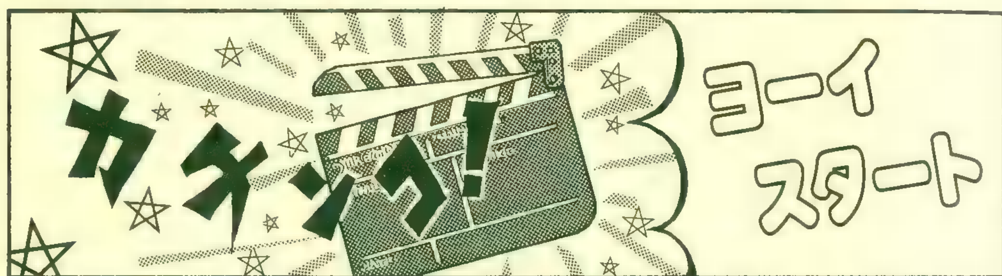












カチンコの音が鳴ると動物達の表情も変わる。彼らが役者になった証明だ。

ガウ





皆の気持ちが一つの目標に向って行く。映画造りの基本だ。

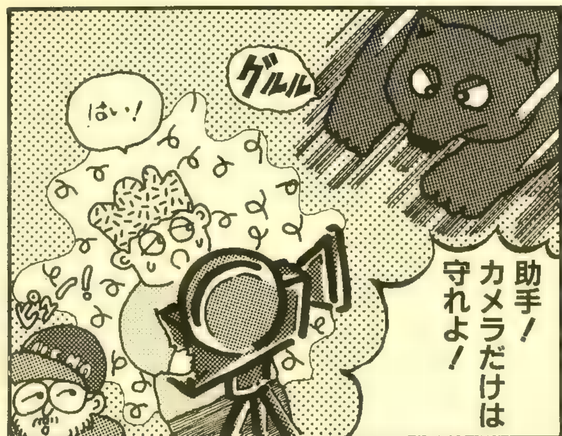
ガッ

キャイン









これも楽しい
映画造りの
一コマである。

なんだろ
これ……

ヒエェェ
恐いよォ！

ブー？

ハハハ

ブラッキー、
都会の人を
いじめるな
ヨ！

THE END.

ブー助は、容貌、ふるまいなど、とかく誤解を受けがちです。おせっかいながら、ここにブー助の正しい理解の仕方、オフィシャル指示書を示しておきましょう。





ひょうきんでナウイブー助の正しい見方

●黒くて、しわくちゃの顔

黒さは、リッチのシンボルです。ほれ、海辺のリゾートで、日焼けした青年実業家なんているでしょ、あれですよ。一種のステイタスを示しているのです。

しわくちゃの顔は、気品があり、ユーモアのセンス豊かなことの表われです。



●ご馳走

猫マンマ。ご飯にみそ汁をかけただけですが、チャトランに教えられたもの。日頃は、ビーフステーキなどの名犬食なので、こういう素朴な味に魅かれるのも〝舌がこえている〟証と見るべきです。





●無口

プー助は、めったに吠えません。無口なのです。人を笑わせる才能に丈けているほど、楽屋では無口なもんだって、いうでしょ。本当は、オレは大物なんだという哀しいポーズかもしれないけれど。プー助の場合は、ポーズでは決してありません。パグ一族の正しい伝統です。



●好きな映画

ズバリ、「子猫物語」。これは実に正しい見識というべきでしょう。自らが出演した映画を指名するあたり、素直な人柄、いや犬柄がでているというものです。

●ギョロ目

目は口ほどに物をいいます。目で演技してこそ、本物の役者。ギョロ目は、性格俳優としての基本的な資質です。



●短足、胴長

これは、プー助がナウいことを示す何よりの証拠です。いま、スマートでのっぺりした二枚目ははやらないのです。おもしろくて演技が達者、これこそ人気者の条件なんですね。かの武田鉄矢さん、タモリさんをごらんなさい。ビートたけしさん、タモリさんもしかりです。



●おなら

プー助の名前は、おならをプーとするところから付いたものです。しかし、名門パグ一族の出身のお方ですから、その刺激臭は、ほどよい香水の香りと思うべきです。





撮影日記ダイジェスト

こぼれ話には、おいしい味があります。

長い撮影の間には、悲喜こもごも裏のドラマがいろいろ生まれるものです。原野生まれのゆかいなエピソード集、ひと味違った楽しさです。



「涙の番屋」

チャトランが、漁師の番屋でヒグマに襲われるシーンがありました。

この番屋が作られたときのことです。撮影が終わったらさし上げるという条件で、漁師のIさんに協力をお願い。Iさんは大喜び、張り切って漁具一式を貸し出してくれました。業者に依頼した番屋は、たちまち完成。それはそれは立派なものでした。

「こんなすばらしい番屋がもらえるのかい」

Iさんは、目を白黒させたほどです。

ところが、

「きれいすぎるな、風雪に耐えた小屋のイメージが撮りたいんだ」

カメラマン氏の一言。それはそうだというわけで、スタッフ一同、ハンマーやノコギリ、クギ抜きを握り、どんどん、ばたばた。一気に取りこわしにかかったのであります。びっくりしたのは、Iさんです。

「そんなにこわさなくても——」

周りでオロオロするばかり。

約一時間の奮闘の結果、見るからに古びた風雪何十年という番屋が、出現したのです。

イメージ通りだぞ、喜ぶスタッフの側で、目に涙をためてガっくりのIさん。

「話がうますぎると思ったよ」。

「プー助のクラクション」

呼吸をすることさえはばかられる、それほど張りつめた空気がただよう本番中——。

こともあろうに、とつぜん車のクラクションが鳴り響いたのです。

「だれだ!」

スタッフはかんかんです。額に深いシワを寄せて車の方をにらみつけたのですが、人の姿はありません。〝

変だなあー、首をかしげながらも、再び、

「本番スタート!」

と、どうしたことでしょう。またまた、高らかにプー、プー、プー、のクラクションが鳴り始めたではありませんか。

血相をかえて車へぶっとんで行く助監督。そこで発見したのは、出番待ちで、ハンドルに前足をかけて昼寝を決めこんだ大スター、プー助先生だったのであります。

これにて、一件落ちゃーく。

「当幌川のナイトロケ」

ロケの中でも、最も苦しかったものの一つが、当幌川のナイトロケ。

スタッフは、昼の間に現場作りとテストのくり返し。やがて、夏の陽が落ち、闇が支配する夜七時に撮影開始です。

真夏とはいえ、夜ともなると気温は零度近くまで下がります。川の水も、少し手を入れただけでも凍るように冷めたいのです。

ダウンジャケットを着こみ、胸までもある胴長をはいての作業です。頭にはヘッドライト。その格好で川岸や川面を行ったり来たりしている様は、さながら、はるかなる宇宙からやってきた〝ゲムール星人〟。

腰まで水につかり切ってのロケは午前4時まで。終わった時には、全員、体がまひして、川辺にへたり込んだのです。

そしてすすったトン汁。

「こんなにトン汁がうまいとは、トンと知らなかったよ」

スタッフ一同、泣き笑いの実感です。

「スタッフ協奏曲」

映画のスタッフは大部隊。そしてチームワークがよい映画作りのポイントにもなります。

畑監督は、事あるごとに、

「今回のスタッフは最高だね」

ともらしたといいます。

しかし、そうしたチームのハーモニーが最初から出来上がっていたわけではありません。

スタッフの出身が、映画、テレビ、コマーシャルと三部門。それだけに、習慣の違いなどで反目し合うこともあったのです。

映画出身の人は、「映画」を「本編」と呼びます。コマーシャル出身者などは、何が本編だ！と実にささいなことにもひっかかっていました。

ところが、長い合宿生活で、お互いの手の内がすっかり分かり合い、うちとけていったのです。

動物が相手の撮影ですから、全員が心を一つにして、動物の気持になって進めないと、思うようなシーンが撮れません。人間の反目は、そのまま、動物に伝わってしまいます。動物の撮影が初めての人も多く、とまどうことも多かったのです。

それでも、畑監督の下、誰れもが力一杯闘い、汗とほこりにまみれながら、働きました。「ぼくはもう出る幕がないよ。なんにも言わなくても、スタッフがみんな分かってるんだもの」

クランク・アップが迫まったある日、畑監督はうれしそうに、そう呟いていました。



「神さま、おばちゃん」

ロケの間スタッフが寝泊りしたのは、一戸建ての住宅、マンション、アパートなどで、まさに住みついての撮影でした。

本部と呼ばれた一戸建ての家には、三人の「おばちゃん」が手伝いに来てくれていました。もちろん、本業は主婦なのですが、スタッフの〝お袋さん〟になり切って、実によく面倒を見てくれたのです。

晩の食事はもちろんのこと、掃除、汚れものの洗濯、スタッフの愚痴の聞き役、人生相談、ある時はお酒のお相手までですから、大変です。

きつい撮影が続き、夕陽を見るころになると、スタッフの頭に浮かんでくるのは、おばちゃんたちが丹精をこめて作ってくれる力いっぱいおいしい夕ご飯でした。

疲れきって帰ってくると、みんな救いを求めるように玄関の扉を開けます。すると、

「おかえりなさい!」

はち切れんばかりの明るい声と、おいしそうな夕飯のにおいが迎えてくれたのです。

ニコニコ顔でご飯をかきこむスタッフの姿を満足気に眺めては、ご飯のお代わりを次々に盛りつけてくれるおばちゃん。ほんとうに拝みたくなるほどありがたく思ったとは、誰れもが口にした言葉です。

何ヵ月もの第一次ロケが終わり、一息入れるためにスタッフが中標津を離れるとき、全員が、おばちゃんたちと堅い握手をかわし、しばしの別れを惜しみました。

そんなとき、骨太のたくましい拳の上には、涙の粒が落ち、光っていたのです。

「晴れ男に、雨男」

戸外ロケには、晴れ男と雨男がいるものです。畑監督は、「晴れ男」の名をほしいままにしていました。

実際に、畑監督が行く所は必ず、きれいな太陽が顔を見せていたのです。

たとえ、今にも雨が降り出しそうな状況でも、畑監督が姿を現わすと、まるでウソのように晴れてしまうのですから、驚きです。そんな監督の神通力も年に何度かきかなくなることがありました。

ある日のこと、絶好のロケ日和りだと誰れもが思っていたところ、急に暗雲がただよい雨が降り出しました。

「晴れ男」の監督がきているのにどうしたことだ、スタッフが首をかしげながら撮影機材をたたみ始めたときです。突然、誰かが叫んだのです。

「そうだ、今日はO氏が北海道に来る日なんだ!」

O氏は、「子猫物語」のプロデューサーなのですが、恐怖の雨男とおそれられていたのです。

「そうか、O氏が来るのか」

みんな一様に納得しながらも、うらめし気に雨空を見上げたものです。

「弁当こわい!」

原野での撮影ですから、昼は弁当がほとんど。疲れた体を休めてくつろぎタイム、食べることの楽しみは、また格別です。

弁当は、C食堂製のもの。何の変哲もない幕の内弁当だったのですが、ご飯の量だけは多かったのです。

最初のうちは、とにかく腹が減っているのだから、何を食べてもうまい。若いスタッフなど、二個、三個とたいらげたものです。

しかし、おかずは毎日ほとんど同じ。二、三か月もすると、すっかり飽きてしまい、見るのもうんざり。昼食が近づくと、

「弁当こわい!」

かえって憂鬱になったほどです。

そんな十月のある日、昼食どきに、わっと歓声が上がったのです。畑監督がとれたてのおいしいイクラをどっさり振るまってくれたからです。

白いご飯の上に輝く、あふれるばかりのオレンジ色。

うまいものを食べたのですから、午後の撮影がうまくいったのは、いうまでもありません。







「休日、罪ないたずら」

原則として、ロケは週に一度休みをとりました。そんな日には、自転車のペダルを軽やかにこいで、中標津の街を走るスタッフの姿が見られました。動物たちだって、休日はうれしかったのでしょう。プー助など、玄関先で腹ばいになり、朝から晩まで眠っていました。

あるとき、ぐっすり眠っているプー助を見て、スタッフの一人がいたずらを思いつきました。プー助の耳もとで、

「ヨーイ、ハイ」と叫んだのです。

すると、ぐっすり眠っていたはずのプー助がびっくりして起き上がり、さっと四肢をふんばり、尾を丸めて、瞳を輝かしはじめたではありませんか。

そのりりしい顔つきは、まさにロケ現場でのものです。「ヨーイ、ハイ」は、監督補の上野さんが本番のときに使うかけ声。

何をやったらいいの、大きな黒い瞳にじっと見つめられたいたずら氏、どう対応していいのかしどろもどろで、ごめんね、プー助。

「感慨のスケジュール表」

本部の居間には、「撮影スケジュール表」が貼ってありました。そこには、

「晴れ、動物王国、落し穴」、「曇り、虹別、農家」など、撮影場所とシーンが書かれていました。

大きな模造紙いっぱいに書き込まれたスケジュールも、ロケが終わりに近くなるにつれ、撮影ずみの×印が大半を占めるようになりました。

残るは、「曇り、根室、カラス」だけになったある日、助監督のM氏とI氏が、じっといつまでも「表」を見つめていたのです。

長かった闘いがようやく終わろうとする安堵感、仕事をやり遂げた満足感。そしてお祭りが終わろうとしていることへの寂しさが、そうさせずにおかなかったに違いありません。

「チャトランの集中力」

主役になったチャトランの〝演技〟にかける集中力は、他の猫とは比較にならないほどすばらしいものでした。

畑監督の厳しい演技お願いにも、NGをあまり出さずに立ち回ったのですから、さすがです。

しかし、いちど本番が終わると、遊びにでかけてしまい、次の出番には、スタッフが大慌てで捜し回ることもたびたびでした。

そんなときは、木の上に登って遊んでいるか、車の下で居眠りを決めこんでいるかです。「チャトランや、チャトランさん」

なにしろスターです。猫なで声で、出番を知らせるのですが、なかなか尻尾を振ってはくれません。

しかし、どんなに気難しくても、こうすれば喜ぶということが一つぐらいはあるものです。心得たスタッフが、木の枝を折って振り動かしながら目の前へ持っていきます。

するとどうでしょう、チャトランの目が妖しく光り、野生を取り戻して、小枝に飛びついてくるのです。

こうなればしめたもの。いよいよチャトラン出演の本番「スタート！」となるわけです。

（取材協力・小宮山道隆）

チャトラン料理の出来上がり!



オショロコマとヤマメ

■チャトランの自然料理教室

なんてったって、素材のうまさをにがさないことが、わたしの料理ですな。だから、素材の吟味には、ニャンともうるさいのですよ。

わたしの住んでいる東北海道は、魚がうまいことで知られております。川はもち、港へあがったばかり、浜でとれたばかりの魚介のうまさといったら、映画出演にはない、味があるんですよ。

●おいしい素材

アブラコ、アメマス、イワシ、イワナ、オヒョウ、オショロコマ、カレイ、サケ、サンマ、ニシン、ホッケ、チカ、マスなど、それこそ限りがないほど。とにかく、この数十倍はあるのですから、ハッピーです。

●キャット・アラカルト原野風

材料/チカ、5~6匹（1頭分）

料理方法/なんにもすることなし。生のまま丸かじりがいちばん。新鮮な魚肉と、栄養豊かな内臓のほろ苦さがほどよくマッチして、味わい格別です。

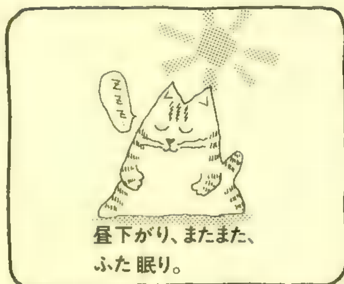
ネコラム
Ne-column

主役チャトランの一日

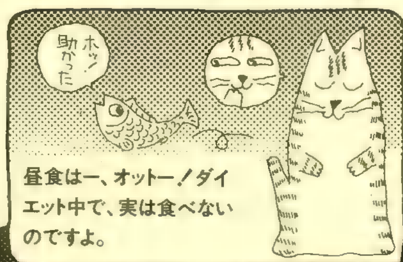
映画スターの一日は、優雅で、華やかなものであります。



朝食、腹がいっぱいになったら、まずひと眠り。



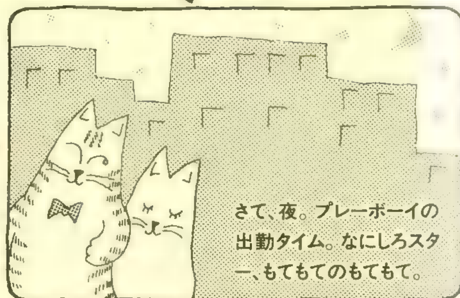
昼下がり、またまた、ふた眠り。



昼食はー、オットー!ダイエット中で、実は食べないのですよ。



夕方が近くなれば、おめかし。



さて、夜。プレーボーイの出勤タイム。なにしろスター、もてもてのもてもて。



恋の夜は、いい夢みながら、すーやすや。(眠って恋をして、それがチャトランの優雅で華やかな1日の実態なのであります。)

すいせんTVガイド



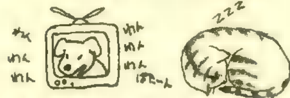
■かつおブジTV

「おはよう、ニャースデー」

新鮮な生の魚がいっぱい登場!

「みとこーにゃん」

相変わらずのワンパターンだが、ネコむにはちょうどよい。

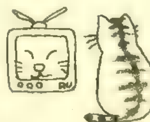


■オニャンコTV

「朝のニャース」

またたび注意報など、実用ニャースが特長。

「ムツゴロウとゆかいな猫」。チャトランの出演が見所。



「ニャるほどザワールド」

世界の街で、猫ふんじゃった!

「オニャンコ語講座」

ヒゲの天気予報

▼ヒゲが下へ

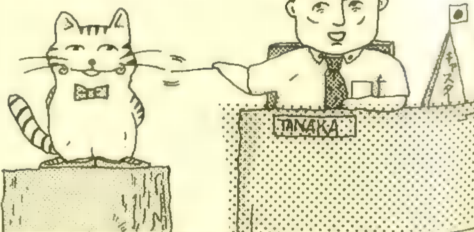
くもりのち雨の日もあるでしょう。

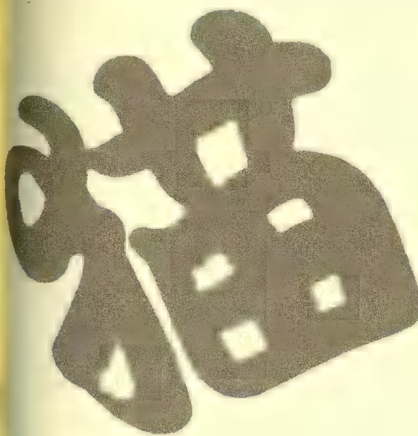
■ヒゲが水平

くもり時々晴れの日もあるでしょう

▲ヒゲが上へ

晴れの日もあるでしょう。





なぜ「ねこ」なのか、知っていますか?

日頃、あたり前のこととして「ねこ」と呼んでいますが、その名の由来は?となると、首をかしげる方も多いと思います。

そこで調べてみたのですが、一説では、古くは、どうも「ねこま」といっていたらしいのです。漢字になおすと「寝子麗」なんですね。

この動物が日本に渡来したのは、高麗（古代韓国）から。そして、とにかくよく寝るので、「寝子麗」となったわけです。そのうちに、「ま」の字が次第に発音されなくなり、つまり「ま」抜けになって、「寝子」となったというのです。

たしかに、昼下がりの縁側などで、背を丸めて寝ている猫をよく見かけます。気持よさそうで、ほほえましいものです。

昔の人たちも、そんな姿をたくさん見て、「よく寝る子だなあー」と思ったのでしょうね。

猫の仲間は世界に、どのくらいいるのかな?

世界中にいるネコ族の仲間は、ライオン、トラまで含めて五十一種類といわれています。その中で、身近かな猫の純血種は、今のところ三十九種類なんですね。

家猫は、毛の長さによって、長毛類と短毛類に分類されますが、われらが主役チャトランは、短毛類の茶トラ猫ということになります。ちなみにトラ猫は、家猫の祖先にいちばん近いものとされています。

さて、あなたの家の猫は、どんな種類なのでしょうか。

猫には、愛玩動物として、長く飼われてきた歴史があります。それだけに、映画、文学など様々な分野で活躍してきました。猫にまつわるミニ知識、そしておもしろ雑学アラカルト〟

猫は、映画の中でも、スターしてきました。



猫は、一見、表情が乏しい感じを受けるので、犬ほど芸達者じゃないといわれてきました。とんでもない誤解でして、銀幕のスターになったニャンコもたくさんいるのです。

中でも名演技で知られるのは、「三匹荒野を行く」という映画に登場したシャム猫のテーオです。二頭の犬とともに、主役トリオとしてがんばりました。

この他に、「ハリーとトント」で、寂しい境遇にある老人をなぐさめたトント。「ティファニーで朝食を」では、子猫が恋のキューピット役として大切な役割をしています。

アニメーション映画になると、猫君も言葉をしゃべりみごとな役者ぶりです。「長靴をはいた猫」、「おしゃれキャット」などは傑作として知られているし、名が売れているという点では、なんといっても「トムとジェリー」のトム君でしょう。

そして「子猫物語」のチャトラン。猫スターの演技に、新境地を拓いたのですから、映画史に、長くその名が刻まれるにちがいありません。

猫のことわざ、いくつ知っていますか?

猫と犬といえば、それこそペットの両横綱。それだけに人間の暮らしにとけこんで、日本語の中にも、猫にまつわることわざ、猫を用いての比喩がたくさんあります。

思いつくままにあげてみただけでも、「猫に小判」、「猫に鰹節」、「猫の手もかりたい」、「猫の額」、「猫の目」、「猫も杓子も」、「猫を被る」、「猫舌」、「猫背」、「猫なで声」などがあります。

このほかに、「猫にまたたび女郎に小判」などという、猫が耳にしたら怒りそうな言葉もあります。

こう見てくると、どうも猫関係の言葉は、あまりいい意味には用いられていないようです。でも、これらの言葉は、人間の勝手な見方で、猫にとっては、いい迷惑ですよね。

猫の名誉のために付け加えれば、古代エジプトでは、極めて神聖な生きものとされ、人が故意に傷つけようものなら、死刑にされてしまったといいます。

今、猫好きの国といえば、アメリカ、イギリス、フランスあたりでしょうが、日本だって負けてはいません。

「あなたは猫派、犬派?」なんて問いが、雑誌の特集になるぐらい、人間の友だちとして愛されているのですから。

これからは、猫についての明るくゆかいなことわざが、きっと生まれるに違いありません。この「子猫物語」がきっかけになって、「猫犬の仲」(お互いに助け合って生きていくこと)のようなことわざが生まれると、すてきですね。

雑学

CATS! CATS! CATS!

文学の中では、ニヒルな役どころで活躍です

クールで端正なマスク、知的な感じが売りものの猫ですから、文学の中での活躍は多いはずです。主役として登場していなくても、何らかの形で描写されているものとなると、数限りありません。

さて、主役もしくはそれに近い感じで出てくる作品となると、日本では、ご存知、夏目漱石の「我輩は猫である」にとどめをさします。

ちょっとニヒルな視点から、人間さまの生態を観察、分析してくれていますが、名無し猫君の、皮肉たっぷり、ユーモアにあふれる語り口には、脱帽ものです。

同じようなタイプの猫が登場する外国ものとなると、ドイツのホフマンが書いた「牝猫ムルの人生観」があります。

タイトルからして意味ありげですが、なんと猫さんが評論家としてご活躍ですから、びっくりです。人生とは何か?こんな難しい問題についてのウンチクを、猫さんから教えていただくのも、また楽しいものです。

アニメにもなっている「長靴をはいた猫」になると、猫君の活躍は、さらに目を見はらせるものがあります。

様々なアイデアを駆使して、飼い主の少年を、王女さまと結婚させてしまうのです。こんな猫だったら、ぜひ飼ってみたいものですね。

恐わいですね、恐わいですね、このタイプの小説で有名なのは、ポーの「黒猫」。

殺された女主人とともに壁の中に埋められてしまった黒猫が、その泣き声で、死体のありかを教えるというのですから、すごい話です。

この他にも、最近では、赤川次郎の「三毛猫ホームズ」シリーズなど、猫がタイトルに出てくる小説はたくさんあります。

この機会に、猫が登場する小説を集めてみるのも楽しいのではないでしょうか。

チャトラディショナル

●正しいチャトランのあり方

プレッピー、アイビーなど、伝統を誇る世界には、それにふさわしいファッション、用語、作法といったものがあります。
日本の伝統を支える茶トラ猫。そのオフィシャル・スタイル・ブック、はじめて公開です。

●鼻

常に清潔でなければ、嗅覚に狂いを生じます。色は濃い目のピンクがオーソドックスです。

●目

猫品のよさは、何といっても澄んだ目がポイントです。大きくて丸く、色はうすい茶色をたたえて、透明感もなければいけません。

●毛なみ

艶やかな明るい茶色がベスト。トラの縞模様は、体にしなやかな曲線を描いていなければなりません。

●手

ツメは、鋭く湾曲し、先端は常に磨かれているべきです。パッドはオレンジ系のピンク、厚みがあって柔かいのがいいのです。

●尾

尾は感情を表わす大切なパーツです。長くてしなやかなのが理想型。また優美な立ち居振る舞いも、美しい尾がポイントになります。

ネコラム
Ne-column

原則として、食事は、新鮮な生の魚となっております。みそ汁をぶっかけての猫マンマは、味については、まずまずなのですが、美しさに欠けるきらいがあります。食事もビューティフル&デリシャスが、チャトラディショナルのベイシックなのです。

●ヒゲ
威厳ただよう容姿と、正しい行動力に欠かせないものです。横に長くすっと伸びていなければなりません。

●乳房
女性の場合、日頃は毛の中にかくれ、乳首がわずかにのぞくぐらいが正しい身だしなみです。



●へそ
出べそは、やはり正しい姿とはいえません。大の字になって寝ることも多いので、日頃のお手入れが大切です。

●足
内容は、ほぼ「手」と同じです。脚線については、長からず短からずがベストです。

PRODUCTION・NOTE

主人公チャトランは、まさに、シンデレラ・キャット

この映画は、主人公の子猫さがしが、大変な難問でした。なんといっても、自然に演技ができる勘のよさに加えて、美しくなければならないのですから、オーディションも大変です。

畑監督がイメージし、提出された主役の条件は、次のような厳しいもので、スタッフ全員が思わず、うなってしまったのです。

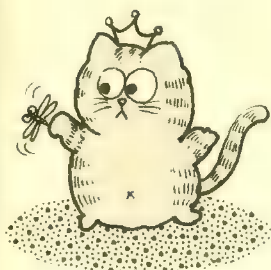
●美しい縞のあるトラ猫であること。（このトラ毛でなければ、大自然の風景に合わない）
●生後三〜四週間の子猫であること。（演技を説得するうえで、人間とのコミュニケーションが成り立ちやすい）
●尻尾が長いこと。（猫はなき声だけでなく尻尾を使って感情を表現するから）
●ルックスが良く、目がパッチリして大きいこと（説明不要）
●好奇心が旺盛なこと。（勘がよく、陽気に物事に反応してくれなくてはならない）

などです。

これらの条件に合った子猫を求めて、スタッフは全国にとびだしていきました。友人、知人の紹介、猫の好きなグループや獣医さんを訪ねては、面接をくり返しました。

東京をはじめ、全国各地でスタッフが会った子猫の数は、およそ三〇〇〇匹に及ぶというから、びっくりです。

とにかく、努力のかいあって、二十数匹が第一次面接に合格しました。それから、動物王国での適性検査です。これらの難関をすべてクリアーしたのが、チャトランなのです。まさに、シンデレラ・キャット。







ユーモアたっぷり、プー助の名演技に大拍手！

プー助が、チャトランを助ける数々の名場面。それはとても感動的です。プー助はパグ犬のオス。パグ犬は、様々の犬の中でもすば

ぬけて陽気、あいきょうたっぷりです。

畑監督も、子猫の相手はパグ犬しかいないと、最初から決めていたとか。

プー助は、スタッフの誰れにたずねても、頭がいいといいます。

それに、瞬間湯沸かし器というニックネームをちょうだいしたほどの勘の冴え、たっぷりの好奇心、クマと戦う勇気など、どれをとってもスターとして一級品なのです。

どうしよう、難しいシーンでは、目をむいて首をかしげるゆかいな仕草、チャトランと別れていくときの寂しげな表情、いずれも実に名演技でした。

このプー助の好演があればこそ、主人公チャトランの姿も引き立ち、映画の流れの中にほのぼのとおかしいユーモアが生まれたのです。

「ハーイ、本番！」の声がかかると、瞳が輝き出すプー助。畑監督の贈ったニックネームが「お助けプー助」。それは、撮影がいきづまると決まって助けてくれたのが、プー助の名演技だったからです。



動物たちの名演技に大拍手！上野監督補と畑監督。



北の原野は、スタッフたちの心のふるさとに。

自然のすばらしさを生かし切ったスタッフの心意気！

「こんな豊かな、ありのままの自然の中で撮れるなんて、しあわせだ」

藤井カメラマンの述懐です。

「子猫物語」のすばらしさの一つは、森、雨、霧、雪、すべて自然のままを写しとったことです。

都会育ちの多いスタッフは、自然のふところにすっぽり抱かれ、その豊かさに魅了され、その美しさを可能な限り表現し尽そうと苦心しました。

自然の光を十分に生かし切った美しいソフトな映像。撮り終えた今、人工（作り物）では、自然に勝てないな、スタッフの偽りのない実感です。

朝五時から、夜の九時、十時まで撮影が続けられることもしばしばでした。毎日、夜中に、天気予報とにらめっこをしながら、次の日の撮影作戦会議がくり返されました。たしかに辛く厳しいことも多かったのですが、誰れ一人、苦情をいわなかったのです。

自然の中で撮りながら、自然のすばらしさ奥深さを肌で感じたスタッフにとって、しあわせな日々でもあったからです。

PRODUCTION NOTE

鋭く温かい動物観察が、この映画を作らせた!

ムツゴロウ王国を作って十五年。畑監督はまさに、動物たちと寝食を共にして、動物たちの観察、実験をくり返し、追随を許さないだけの生きたデータを蓄積し、動物たちへの深い理解と温かい愛情を培ってきました。

この土台があってこそ、動物たちを役者として起用し、自然に演技させることが可能になったのです。

動物を調教して、ストーリーに必要な部分にはめ込んでいく動物映画と違って、あくまでも動物たちが、画面の中で生き、光り輝いていなければならない。

これは、長い歴史を持つ映画世界の常識を破った新しい手法であり、畑監督しか撮れない夢の実現でもあったわけです。

新しい撮影方式がプロのスタッフを魅了!

劇映画には、きっちりした台本があります。しかし、今回の場合、動物が主人公であり、ほとんどが自然の中でのロケということもあって、台本通りにはいかないのです。



いよいよ本番スタート間近です。カメラの低さにご注目。

天候の変化、動物たちの状況によって、臨機応変に対応して、新しいドラマを作っていく応用力が求められたのです。

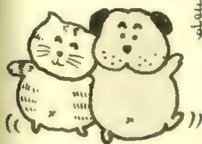
畑監督からは、動物の行動を熟知していなければ生まれ得ないアイデアが次々に出され、スタッフを驚かせもしました。

そのアイディアは、猫と鹿が一緒に寝る、心熱くなるような生命のふれ合い、猫が尻尾で魚を釣る奇想天外など、数々の名場面となって結実しています。

また、撮影現場では、劇映画の製作方法に慣れたスタッフですから、戸惑いの連続でした。しかし、クランク・インして一ヵ月もすると、畑監督の目指すものが理解でき、スムーズな進行となったのです。

フィルムを回すまでの準備が終わり、いざ本番となると、畑監督、キャメラマン、助手を残して、現場から離れ、動物たちが演技しやすい雰囲気作りです。

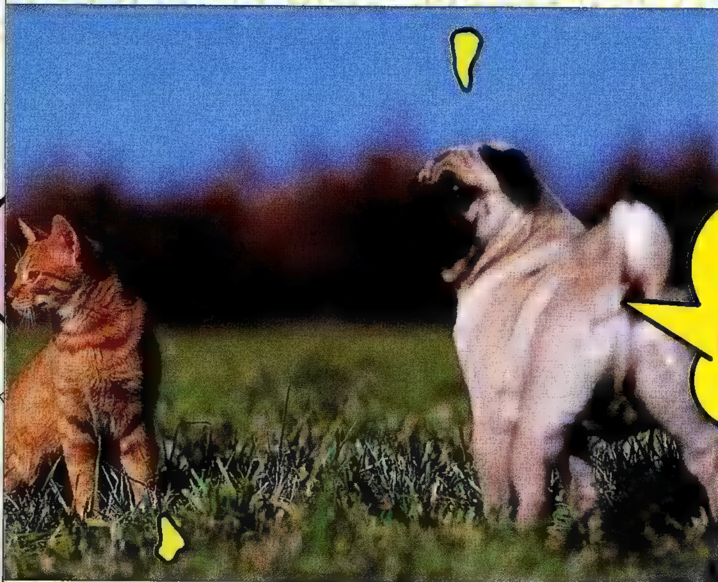
ワンカット、ワンカット、真剣勝負の連続。どのシーンにも、スタッフたちの心に残る想い出が、いっぱいつまっています。



珍 おっと 場面集

プ・プ・PU！は、
おいらの日常会話。
チャトラン、
わかるかなあー。





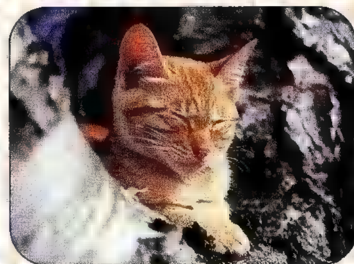


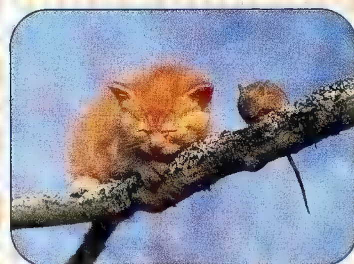

「PU！」さえなければ、
いい男なのになあー。



噂のプー助踊り














おいらの悪のり





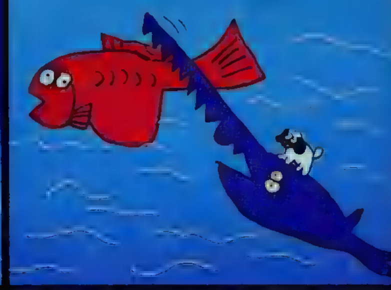
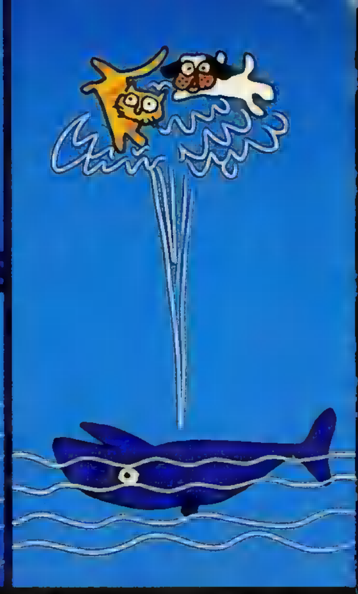
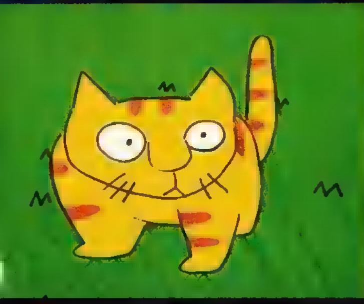


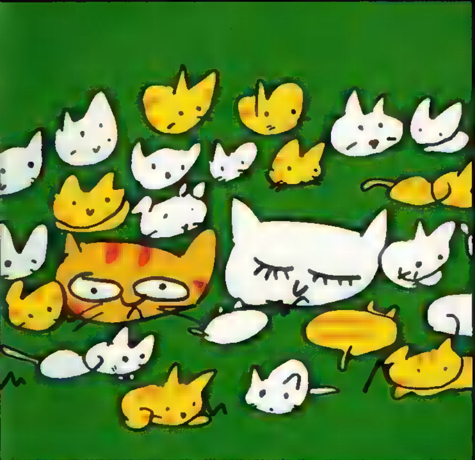




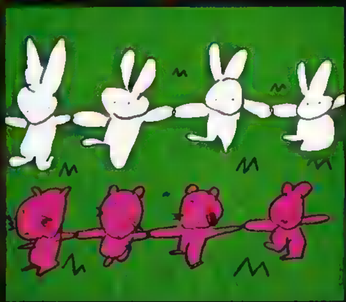


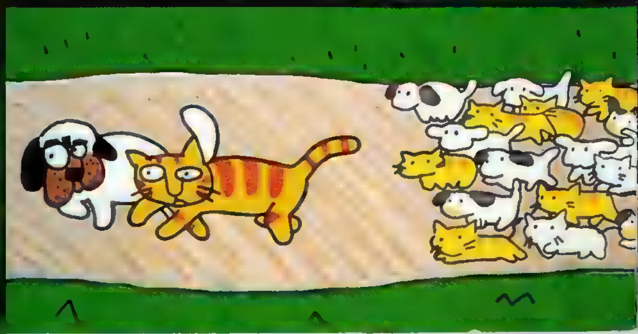

アニメファンタジー
絵・畑 正憲









麗しの貴婦人、チャトランの恋人





チャトラン
なんてったってアイドル！
主役のトラ毛です。

CATS



プー助
勇気があって心優しく、
ユーモアたっぷり！

オレ、おしゃれグマ

チャトランやプー助をはじめ、「子猫物語」では、たくさんの動物たちが、名演技を見せてくれます。
いずれ劣らぬ個性派ぞろい。その人となり、いや動物ぶりのご紹介。とってもゆかいな仲間たちです。

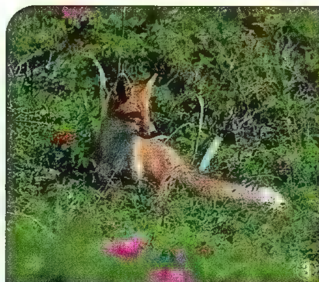


猫ならんじゃった



さいた、さいた、
サクラが生んだ

① ありゃりゃのアライグマ
② 木登り名人ブラッキー
③ 北のほまれのキタキツネ
④ ある時は、チャトランの母
⑤ ウマく演じたよ、ボク
⑥ シカたないから出演なの







みんなかわいいんだから
モー！













ダンディ。





かもめのみなさん



出番はオヒルかな



かわいい三つの子





フォトストーリー

子猫物語

The Adventures of Chatran

子猫物語製作委員会 編 ©

発行者／日 枝　久

出版プロデューサー／宮内正喜・緒 方　悟

発行／㈱フジテレビ出版

発売／㈱扶桑社 〒163 東京都新宿区西新宿2-7-1
電話03-343-2000

昭和61年 6 月27日 初版 第 1 刷 定価880円
昭和61年 7 月24日 第 3 刷
印刷・製本／㈱集美堂

ISBN4-89353-090-9 C0076 ¥880E

落丁本、乱丁本は、扶桑社販売部にお送り下さい。送料、小社負担でお取り替え致します。

監修／畑　正憲
編集／㈱サムシング
取材／斉木　誠
ＡＤ／下村哲也
　Ｄ／荒井　建
スチール撮影／小宮山 道隆
石川 利昭







発行 フジテレビ出版
発売 扶桑社
定価 880円

ISBN4-89353-090-9 C0076 ¥880E